

令和5年度 羽島特別支援学校自己評価・学校関係者評価

令和5年度 重点目標及び自己評価（小学部）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命や体を大切に、健康に生活できる力を育てる ・確かな学力を身につけ、物事に主体的に取り組む力を育てる ・人とのかかわりを通して、心豊かに生活できる力を育てる
部の目標とめざす姿	<p>○基本的な生活習慣を身に付け、生き生きと活動する児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを整えて元気に活動し、家庭や学級での約束を守って安全に生活することができる。 ・友達と一緒に仲良く遊んだり、力を合わせて学習したりすることができる。 ・身近な人に自分から挨拶をするなど、人と関わる基礎的な力を高めるとともに、集団の中での役割が分かり、自分の持っている力を発揮することができる。

評価する領域・分野	学校教育全般
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 児童が健康・安全に学校生活を送るために、教師間、家庭や保健室が密に連携をとり、情報を共有する。 (2) 児童の発達段階や興味・関心に応じ、主体的に楽しく学ぶための授業改善・教材研究を実施する。 (3) 身近な教師や友達との関わりの中で、挨拶をしたり自分の思いを伝えたり、自分の役割を果たしたりすることができる。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の打ち合わせや主任会・部会等での情報共有、保護者懇談 ・学年会、研究グループでの授業改善 ・部内の交流活動や、委員会活動等を含めた教育活動全般
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> (1) 些細なことでも丁寧に情報共有を行い、必要に応じて素早く対応・検討し、共通理解をして支援にあたる。 (2) 児童の実態把握を適切に行い、よりよい支援方法や教材を考え、実践する。 (3) 教師が手本となる行動を示したり、児童の興味・関心のある役割を設定して意欲的に取り組んだりできるようにする。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 児童の情報を共有し、連携して適切な支援を行うことができたか。 (2) 授業改善や教材研究を通し、個々のねらいに迫る授業を実施することができたか。 (3) 児童が人との関わり方に関する力を高め、自分の役割を果たすことができるような支援を行うことができたか。
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から、保護者に丁寧に接したり、連絡帳や電話等で児童の様子を説明したりしていることで、信頼を得ていると考えられる。 ・体験的な活動や教材の工夫を行い、児童が意欲的に授業に取り組んでいるが、ICT活用や外部専門家利用等についての保護者への情報発信が十分ではないと考えられる。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> (1) ・主任会や部会等で児童の情報共有を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ、臨時の保護者懇談やケース会議を行った。 (2) ・児童の実態把握を行い、各学年や類型で、授業内容の検討や教材研究を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・6年生で生活単元学習の研究授業を行い、学部全体で事後研究会を行い、意見を交わした。 (3) ・部集会や校内交流・学校間交流等、多くの人と関わる場を設定した。

	・学級での係活動や高学年の委員会等で、自分の役割を設け、取り組むことができるようにした。
評価の視点	評価
(1)児童が健康・安全に学校生活を送るために、教師間、家庭や保健室が密に連携をとり、情報を共有することができたか。	A (B) C D
(2)児童の発達段階や興味・関心に応じ、主体的に楽しく学ぶための授業改善・教材研究を実施することができたか。	A (B) C D
(3)身近な教師や友達との関わりの中で、挨拶をしたり自分の思いを伝えたり、自分の役割を果たしたりすることができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
(1)○児童の特性や体調等の情報を共有することにより、適切な支援を行うことができた。 ▲学年を超えての職員の連携体制を整え、安心安全により児童に寄り添った支援をしていくことが大切である。	A (B) C D
(2)○各職員がアイデアを出し合い、学年で教材研究をすることで児童の意欲を引き出す授業を仕組むことができた。 ▲知的障がい学級と重複障がい学級が合同で行う授業や行事を設定したことは良かったが、お互いに無理のない活動内容になるよう検討する必要がある。	
(3)○交流を伴う活動では普段とは違う人との関わりを経験したり、係の仕事では自分の役割に毎日取り組む姿が見られたりした。 ▲社会に出ても必要とされる挨拶する力を育成していく必要がある。	
来年度に向けての改善方策案	・助けが必要な時は、学年を超えて職員が協力体制をとり、学部全体で児童を支援していく意識を深めていく。 ・授業や活動のねらいを明確にし、単元や校外学習先の6年間を見通した計画の作成・検討を行う。 ・ICTの積極的な活用も含めた授業内容の検討や、教材研究を続けていく。 ・教師が手本となる行動を示すことで、自分から挨拶をするなど、人と関わる力を高めていく。

令和5年度 重点目標及び自己評価（中学部）

学校教育目標	・自分の命や体を大切に、健康に生活できる力を育てる ・確かな学力を身に付け、物事に主体的に取り組む力を育てる ・人との関わりを通して、心豊かに生活できる力を育てる
部の目標とめざす姿	○家庭生活、職業生活に必要な基礎的・基本的能力を身に付け、意欲的に活動する生徒の育成 ・自分の体の成長や変化を受け止めたり、身の回りの状況を把握したりしながら、心身ともに健康な身体をつくり、安全に生活することができる ・学校や家庭での役割を果たし、将来の職業生活への興味や働く意欲を高め、基礎的・基本的な知識及び技能や主体的に取り組む態度を身に付ける ・進んで挨拶をしたり、約束や決まりを守って生活したりしながら、相手や状況に応じて適切に関わることができる
評価する領域・分野	学校教育全般

今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)生徒が健康で安全な生活を送るために教職員の連携・協力体制の向上を図り、チームによる教育活動を推進する。</p> <p>(2)生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に学ぶ授業づくりを行う。</p> <p>(3)学年段階等を踏まえた進路学習の充実を図り、学習状況を発信する。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・主任会、部会 ・学年会、教科担当者会、研究グループ ・保護者懇談
目標の達成に必要な具体的取組	<p>(1)・生徒の障がい特性や病気による体調の変化等の情報共有を徹底し、適切な支援を共通して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や学年内で教職員の役割をその都度確認し、生徒の見守りを行う。 <p>(2)・生徒の実態や学習到達度を把握し、「個別の指導計画」「単元計画」等の作成及び活用を十分に行う。学年会や教科担当者会で生徒の学びに関する情報を共有し、実践に活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じて、ICTの活用や教材・教具の工夫を図り、学習効果を高める。 <p>(3)・生徒の実態を踏まえた進路学習を計画し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路学習の状況を、学年通信や学校だよりを活用して発信し、学んだ内容等について本人や保護者と共有する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>(1)・生徒の障がい特性や病気による体調の変化等の情報共有を徹底し、適切な支援を共通して行うことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級や学年内で教職員の役割をその都度確認し、生徒の見守りを行うことができたか。 <p>(2)・生徒の実態や学習到達度を把握し、「個別の指導計画」「単元計画」等の作成及び活用を十分に行い、学年会や教科担当者会で生徒の学びに関する情報を共有し、実践に活かすことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じて、ICTの活用や教材・教具の工夫を図り、学習効果を高めることができたか。 <p>(3)・生徒の実態を踏まえた進路学習の計画し、実践することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路学習の状況を、学年通信や学校だよりを活用して発信し、学んだ内容等について本人や保護者と共有することができたか。
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から連絡帳や電話等による保護者との連携を行ってきたため、生徒の様子等について保護者との意思疎通ができています。 ・保護者懇談時の進路情報の提供や説明の場を設けたこと、PTA主催の事業所見学への保護者の参加率の高さ等の理由から、「進路に関する連絡や情報提供」に関する項目で高い評価となったと考えられる。 ・「授業」に関わる項目の評価が前年度に比べて低くなった。生徒の実態と学習における目標の共通理解が十分でないこと、学習内容や成果の発信、授業を参観していただく機会が十分でないこと等が理由として考えられる。
取組状況・実践内容等	<p>(1)・生徒の障がい特性や病気による体調の変化等の情報共有を学年で丁寧に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の役割をその都度確認し、生徒の見守りを確実に行った。 <p>(2)・生徒の実態を把握し、生徒の興味・関心に応じた題材で授業を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年等で授業や単元の後に評価を行い、授業の改善点を考えた。 ・ICTを活用した授業に積極的に取り組んだ。 <p>(3)・年度初めに中学部卒業後の進路について研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた進路学習を行った。

	・保護者懇談で保護者の思いを聞き取り、進路に関する情報提供を行った。	
評価の視点	評価	
(1) 生徒が健康で安全な生活を送るために教職員の連携・協力体制の向上を図り、チームによる教育活動を推進することができたか。	A	(B) C D
(2) 生徒の学ぶ意欲を高め、主体的に学ぶ授業づくりを行うことができたか。	A	(B) C D
(3) 学年段階等を踏まえた進路学習の充実を図り、学習状況を発信することができたか。	A	(B) C D
成果・課題	総合評価	
(1) ○学年内で生徒の情報共有を適切に行い、指導・支援について共通理解を図りながら、実際の指導・支援を行うことができた。 ▲教員間で話し合いを行う際、解決したいことや共有したいことを明確にした上で進めていく必要がある。	A	(B) C D
(2) ○一人一台のタブレット端末を活用した授業が増えた。生徒の興味・関心を踏まえた動画制作の活動やリアルタイム授業支援アプリを効果的に活用した教科学習等、ICT活用を積極的に進めることができた。 ▲多様な実態の生徒が学ぶ授業において、一人一人の実態を十分に踏まえ、具体的な目標を設定していく必要がある。		
(3) ○高等部卒業後を見据えた進路学習を行うことができた。保護者懇談時には高等部卒業後の進路先の情報等を積極的に提供することができた。 ▲今後は生徒の実態等も考慮しながら進路学習を進めていく必要がある。		
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年や学級に所属するすべての職員が考えや意見を出し合いながらより良い授業づくりができるよう努める。 ・ 授業づくりにおけるPDCAサイクルのC【評価：授業評価（振り返り）や実態の再把握】の部分の充実を、学年やチーム等で今まで以上に意識して取り組み、A【改善】やP【計画】につないでいく。 ・ 学年段階と生徒の実態等を考慮して、高等部卒業後を意識した進路学習の充実を図る。 	

令和5年度 重点目標及び自己評価（ 高等部 ）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の命や体を大切に、健康に生活できる力を育てる ・ 確かな学力を身につけ、物事に主体的に取り組む力を育てる ・ 人とのかかわりを通して、心豊かに生活できる力を育てる
部の目標とめざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自立と社会参加に必要な基本的な力を身に付け、主体的に活動できる生徒の育成 ・ 健康で安全な生活に必要な知識と技能、社会生活に必要なきまりやマナーを身に付け、安全・安心な生活ができる ・ 基礎学力の定着と自立と社会参加に必要な能力を身に付け、社会生活の中で自分の果たすべき役割を理解し、やり遂げることができる ・ 人との関わりを通して、挨拶や言葉遣いなど、職業生活に必要な知識や態度を身に付け、進路選択・決定に生かすことができる
評価する領域・分野	学校教育全般
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 健康で安全な生活や社会生活に必要な決まりやマナーを意識した生活 (2) 社会生活に必要な基礎学力の定着と自分の果たすべき役割の達成 (3) 人とのかかわりの中での相応しい態度や挨拶、言葉遣い

重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援部（生徒会）発信による学校生活全般に関わる取組の推進 教務部を中心に各学年、学部での各教科担当、担任間での情報共有と学習研究部を中心にした授業改善の推進 学年主任、作業主任を中心に学部全体での生活態度の育成
目標の達成に必要な具体的取組	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会が毎月の部集会等で、ポスターや口頭で決まりやマナーの伝達 生徒一人一人の情報共有と授業研究を通して指導力の向上 作業学習や各実習を通して、働く上での姿勢・態度の育成
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会を中心に生徒間で互いに言葉を掛け合って決まりやマナーを意識できる生徒の育成ができたか。 授業や行事等を通して、自分の役割を理解しやり遂げる支援ができたか。 職業生活に必要な知識や態度を身に付け、進路選択・決定に生かす指導・支援ができたか。
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が緩和されたことで、学部全員が参集できる行事が増えたことから生徒同士の関わりが良い方向へと向かうことができたと考えられる。 どの学年も朝礼の段階から、常に生徒の状況について情報共有を怠らずにどんなに小さなことについても管理職への報告もこまめに行うなど組織で進めたことが大きなトラブルにつながらなかったと考える。
取組状況・実践内容等	<ol style="list-style-type: none"> 生徒会執行部は、その都度昼休みの時間帯に生徒会室での話し合いを設けて次の生徒会行事や全校児童生徒へのアクション等について執行部メンバーの考えを進めてきた。部集会でのゲーム内容や全校児童生徒対象にマスコットキャラクターとの撮影会等の企画をした。また、毎週月曜日の登校時にMSリーダーズの活動としてあいさつ運動に取り組んだ。 校内研究では、作業学習「ビルクリーニング班」の研究授業を通して、事後研究会では活発な意見交換がなされた。 保護者には年度初めから各学年に応じた進路説明会を開き、早い段階から当校の進路支援と卒業後の進路の進め方について理解してもらおう機会を設けた。また、久しぶりに卒業生と語る会を開催し、実際の職業生活について生徒たちへの意識付けを行った。
評価の視点	評価
(1) 生徒会を中心に生徒たちが生き生きと学校生活を送り、学年を超えて互いに助け合って行事や日常生活を送ることができたか。	A ㊀ C D
(2) 学級、学年間で生徒の実態把握と日々の状況を教員間での報連相を怠らずに情報を共有することができたか。また、研究授業を通して各教員が自身を見つめ直し、指導力向上へと意欲的に学ぶことができたか。	A ㊀ C D
(3) 保護者への理解啓発と3年間の段階を踏まえて進路指導・支援ができたか。	A ㊀ C D
成果・課題	総合評価
<ol style="list-style-type: none"> ○生徒会活動は、会長を中心に全校児童生徒が学校は楽しいと思える行事等を企画、運営したい思いを汲み取り進めることができた。 ▲挨拶運動は、生徒会執行部全員が参加して行ってきたが、生徒会メンバー自身のより一層の元気が必要と感じられ、今後の経験を重ねて自信を付けていくことができるよう支援していく必要がある。 ○生徒の体調の変化や心の状態等、小さな変化に対して早期に気づき、職員間で対応できた。 ▲自立と社会参加に向けた個別の課題に迫る自立活動の内容を計画的に教員間で意識を高めて進めていく。 ○保護者へ早い段階からの進路の進め方を説明し理解してもらえ、多くの職場見学を希望し実施することができた。 	A ㊀ C D

▲卒業後の進路決定に向けて、本人の性格や生活環境を十分に把握し、本人の意思決定までの進め方を見直す必要がある。	
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が卒業後の社会生活を考える機会を多くの場面で仕組み、生徒自らが生活態度の見直しができるように生徒会を中心に進める。 ・自立と社会参加に向けた生徒個人の課題を明確にし、作業学習を中心に授業改善を進めていく。 ・進路先決定までの過程を見直し、生徒が真に希望する進路決定ができるように組織として取り組む。

学校関係者評価 (令和6年2月21日実施)

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ後、この経験を生かして全体を見直す機会ととらえ、すべて元通りに戻すのではなくいるもの以外のものを検討すべきである。 ・ICT活用は事業所でも進めている。学校でも慣れ親しんでいるのでよいと思われる。 ・職員間の連携を大切にしようとする課題を明確にしているのが良い。 ・小中高を一貫して支援できる強みを今後も生かして行ってほしい。 ・中学部の進路支援が丁寧に実施されていると感じられた。 ・多様性の時代に、子ども達の多様性を受け入れて、大変手厚く支援されている。半面、卒業後のギャップが心配される。 ・全体的に温かさが感じられる。社会の厳しさは卒業すると分かるが、地域の方等へ知っていただくことは大切である。協力できるところは一緒に行っていききたい。 ・職員の児童生徒に対する熱意をいたるところで感じた。卒業後の受け入れ側としてもできるところは協力し、雇用等力になれることは一緒に考えていきたい。 ・学校には見守ってもらっている安心感をとても感じている。世の中も少しずつ変化しているように思われる。子どもが外出中にパニックになっても周囲の目が温かく変わったように思えることがあり、地域の方等に分かってもらうことの大切さを感じている。 ・現在のような地域等と学校との連携を今後とも継続してほしい。
